いわき発「父親座談会」
with 編集委員

～ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）をめざして～

- 日時　平成19年７月４日（水）午後７時～
- 会場　市男女共同参画センター
- 司会　情報紙「Wing」編集長　鈴木幸男

子育てに積極的に関っている市内在住の男性の方々４名にお集まりいただき、ワーク・ライフ・バランスという観点からご自身の取組と現状についてお話を伺いました。

●職場で

鈴木：男女雇用機会均等法・次世代育成支援対策推進法など、法が制定されましたが職場での実際はいかがでしょうか。

小野　潤三さん（湘南台）
団体職員　長女小学5年生
二女小学3年生　三女幼稚園年長

小野：一生懸命働くことに価値を置けば残業もせざるを得ず、結果的に従業員が家庭で過ごす時間は少なくなります。週休二日等世の中と歩調を合わせることはするにしても、企業が積極的にワーク・ライフ・バランスを進めるのは難しいです。

小西：４年前から、私が市の男女共同参画プラン推進懇話会で勉強して会社が変わりました。従業員（男27名、女11名）の中で、以前は、職人（男性）より事務（女性）は下という棲み分けがありました。現在は、掃除も全員でやり、女性も営業・設計の担当や、申請・竣工検査に出ています。給与格差はまだありますが、自分で仕事をコントロールし、ＰＴＡ活動のために仕事を休むと言える環境にあります。男性社員に、地域の人とコミュニケーションを図るためPTA活動を勧めたこともあります。

田子：食品関係で従業員の８割以上が女性です。会社の継続を考える立場なので、もともと男女という考え方はありません。社員とその家族、地域の継続といった流れにそって会社を運営しなくてはなりません。男女の性差による長所・短所をどのように生かすか考えますが、現実には大手の会社が行っているようなことは出来ません。会社に性差を補填できるような体力がなければ、社員を守れないからです。

藤田：男性は正社員、女性はパートときっちり分けていますが、男女問わず、頑張っている人には上限なしで能力による給料を支払えるようなシステムを考えています。

女性は一生懸命なので、そういう人達に男性の職場と言われているところに入ってもらい、店を運営できるということを発信していきたいです。

●家庭で

鈴木：子育てや家事に関して感じたこと、考えていることなどをお聞かせください。

小野：忙しい中で、最低限どう子どもと関るかを心がけてやってきました。ただ、現実的に前は青年会議所の活動で土日の時間を費やしていましたし、今も「小名浜まちづくり市民会議」の関りで子どもが寝る前には帰れない状況です。しかし、子育ての時間がないことをしょうがないと思わず、どうやりくりするかです。社会で働くことと同様に、家族と向き合うことに重みというか、価値を見出せるかが大事だと思います。朝食を一緒にとることなど、使える時間の中で向き合っています。

小西：多趣味ですし、仕事は残業や海外出張もあります。子どもが小さい頃は、残業をしていると妻が弁当を作り、娘を会わせにきてくれました。それに対し、アンパンマンの劇を演じたりしてこたえた頃もありました。

物理的に家事は私の方が出来ず、妻に負担がかかったのは確かですが、分担してできることなどはなるべくやりました。

会社のことは家に持ち込まず、家のことを会社に持ち込んでも、やるべきことをきちんとしていればよいと考えています。

小西　秀典さん（中央台鹿島）
会社役員　長女大学2年生
二女高校3年生

田子：育児・家事をすべて協力してくれる男性と亭主関白な男性、どちらでもいいと思います。夫婦がお互いに納得していればよく、お父さんも家